

(2) 下の【表Ⅰ】は日本の食料自給率を、【表Ⅱ】は日本の大豆の需要と供給を示している。

- ①表Ⅱから考えて、表Ⅰの大豆の自給率「X」は、およそ何%ですか。小数第1位を四捨五入して整数で答えなさい。
- ②表Ⅰを見ると米と鶏卵の自給率は高いですが、農産物の輸入が大幅に減少すると米よりも鶏卵の生産に大きな影響が出ると考えられます。その理由を30字以内で答えなさい。

【表Ⅰ】

項目	割合 (%)
穀物	28
米	97
小麦	12
大豆	X
野菜	78
果実	38
肉類(くじら肉を除く)	51
鶏卵	96
牛乳・乳製品	59
供給熱量自給率	37

2018年「食料需給表」より

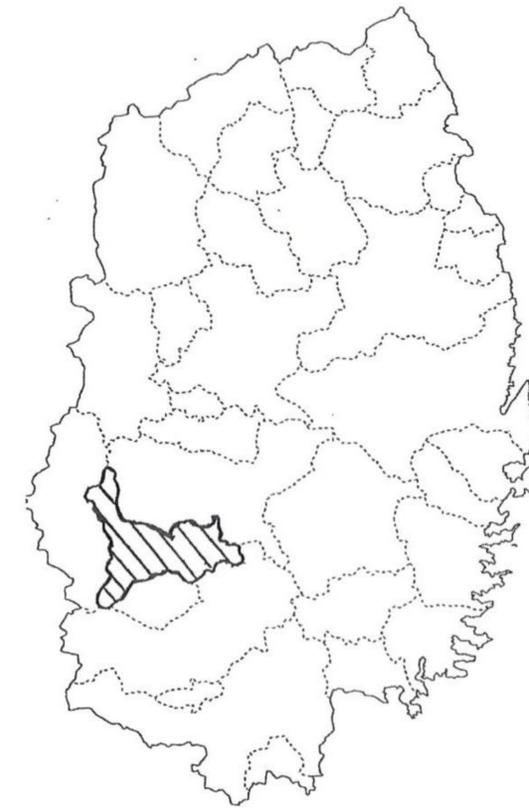
【表Ⅱ】

(単位:千t)

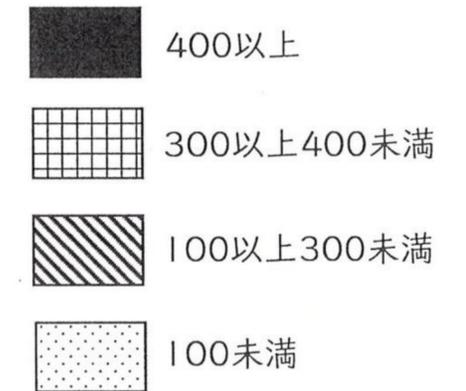
生産量	211
輸入量	3236
輸出量	0
消費量	3567

2018年「食料需給表」より

(3) 次の地図は、表にある岩手県北上市の人口密度を凡例にしたがって表したものです。北上市にならって、盛岡市と岩泉町の人口密度を求めなさい。ただし、小数第1位を四捨五入して整数で答えなさい。また、凡例にしたがい、地図を完成させなさい。



【凡例】 単位(人/km²)



【表】

市町村名	面積(km ²)	人口(人)	人口密度(人/km ²)
北上市	438	92,056	210
盛岡市	886	282,960	?
岩泉町	992	8,310	?

2023年 人口、人口密度岩手県(帝国書院)より

CHUO 総合思考力型入試 1長文読解問題 サンプル問題1

次の文は、石原純という人が、江戸時代に科学者や植物学者、演劇の脚本家としても活躍した平賀源内という人の伝記によせた前書きです。これを読んで、後の設問に答えなさい。

今の世のなかで私たちの役に立っているいろいろな「産業技術」や、それと関係しているさまざまな問題のほとんどは、いずれも科学の上での深い研究にもとづくので、その意味で科学と技術とはいつも密接につながり合っているのです。現在では、そういう科学や技術がすばらしく進んで来ていて、私たちが何をすることもそれらのおかげをこうむらないわけにゆかなくなっているのですが、今から数百年も前の時代にさかのぼると、科学や技術もまださほど進んではいなかったのも、一般の世のなかの人たちもそれらを今日のように重くは見ていなかったのも事実であります。おまけにその頃には科学や技術が西洋では多少とも進んで来てはいたのですが、我が国には全くの「実用的な技術」の外には、学問としての科学などはまるで無かったので、学問といえば昔の聖賢の書に通ずるということが主にせられていたのですから、この時代に最初に①「そういう道」に進むということがどれほど難かしかつたかは、恐らく想像以上のことであつたに違いないのでした。ところで、ここでお話ししようとする平賀源内は、江戸時代に今からは二百十余年ほど前に生まれた人なので、おまけにそれもさほど高くない家に育つたのでしたから、普通ならばそのまま終るはずであつたのですが、どこかに科学や技術を好む性格をもっていたと見えて、その頃としては実に驚くべきほどのいろいろな仕事をしたので、そういう点から見て、いかにも非凡な人物であつたといわなくてはならないでしょう。それで源内がどんな事をなし遂げたかということについて、次にざっとお話ししてみたいと思うのです。

- 問1 本文において、傍線ア「産業技術」と傍線イ「実用的な技術」にはどのような違いがありますか？ 説明しなさい。
- 問2 傍線①「そういう道」とはどのような道か説明しなさい。
- 問3 あなたの身近にある、科学が生かされた技術を一つ挙げ、それによってあなたの生活がどのように変化したか説明しなさい。
- 問4 科学による技術は必ずしも人間によいことばかりをもたらすとは限りません。現代におけるそのような例を一つ挙げなさい。また、そのことに人類はどう対応すべきなのかあなたの考えを書きなさい。